

# 「秋草」と「風」

秋草は、秋に咲く菊などとともにいくつかの草花を組み合わせて表わされます。なかでも風になびく姿や、風に打たれてしなだれた姿には風雅な趣があります。清少納言は『枕草子』のなかで、台風（野分）で乱れている秋の庭の姿や、そこに心を遣う人びとの姿に「野分のまたの日こそいみじうあはれにかしけれ」と述べています。料紙箱の蓋表に表わされた景色には、風に流れる雲の間から見え隠れする月に照らされる秋草が、風にしなだれる情景が表わされています。この風は野分でしょうか。それとも「あききぬとめにはさやかに見えねども風のをとにぞおどろかれぬる」（『古今和歌集』藤原敏行）と詠われた秋風でしょうか。秋の訪れを告げる「風」は、目には見えなくても風に吹かれる秋草の姿を通して模様に表示されるのです。（小山）

しゅうけいまきえりょうしほこ  
秋景時絵料紙箱  
木製漆塗、蒔絵 江戸時代・18世紀 H-64  
Paper Box with an Autumn Landscape  
Lacquered wood with *maki-e*  
Edo period, 18th century



あきくさちゅうとりきょう  
秋草蝶鳥鏡  
東京都八王子市中山 白山神社経塚出土  
銅製 鑄造 平安時代・12世紀 E-15141  
Mirror with Autumn Grasses, Butterflies, and Birds  
Found at the Hakusan Shrine Sutra Mound, Tokyo  
Cast bronze  
Heian period, 12th century

## 「秋草」と「鳥」と「蝶」

平安時代の和鏡には、草花と二羽の鳥を組み合わせた模様が表わされることが多く、そこに蝶が添えられることもありました。これらは中国・唐代の鏡（唐鏡）を模倣した中国風の鏡（唐式鏡）で、中央にある鈕を挟んで表わされる二羽の鳳凰と一對の唐花が、しだいに日本人の好みに改変されたものです。唐鏡や唐式鏡では、蝶は縁の方にいたのですが、和鏡では鳥と組み合わせられることで中の方にも表わされるようになりました。草花のなかでも萩や薄、菊などの秋草はよく用いられ、数種の秋草を組み合わせた模様も好まれました。かくして、秋草と鳥と蝶の模様が成立したと考えられます。秋草と蝶の共演は唐鏡の名残ではありますが、過ぎ去った季節を思わせる秋の蝶は、秋草ともども「ものあはれ」を誘う儂い存在としても見られたことでしょう。（清水）

## Traditional Motifs in Japanese Art: Autumn Grasses

### 日本の伝統模様

日本には自然の景物を表わしたさまざまな模様がありますが、「秋草」ほど日本古来の模様として愛され続けた模様はほかにはないでしょう。奈良時代の歌人山上憶良は『万葉集』で秋の七草を愛でました。万葉和歌に始まる秋草への情緒は、平安時代には絵巻や料紙装飾のなかに見られる秋草表現へとつながり、宮廷内で用いられる時絵調度や鏡などの模様にも表わされるようになりまし。王朝風のみやびやかな秋草模様は、鎌倉時代や室町時代にも、時代に合わせた表現に変化しながら愛され続けました。兼好法師は『徒然草』のなかで「『ものあはれは秋こそまされ』と人は言うけれどもそれはもつともなことだ」と述べています。工芸品に表現される秋草模様を通して、秋の野にしみじみとした情趣を感じてきた日本人の美の心をのぞいてみましょう。

Japanese art often feature standardized motifs that allude to widely-recognized natural themes. Historically, one of the most beloved of these has been “autumn grasses.” The *waka* poet Yamanoue no Okura (possibly 660–733) first extolled the seven autumn grasses—a set of seven flowering plants—in the early poetry anthology *Collection of Myriad Leaves*. These seven plants were subsequently depicted in illustrated handscrolls and on decorated paper during the Heian period (794–1192) and also appeared on lacquer furnishings and mirrors used at the imperial court. In the following centuries, the elegant, regal motif of autumn grasses evolved to suit changing tastes as it continued to find admirers from the Kamakura (1192–1333) to Muromachi (1392–1573) period. In his 14th-century work, *Essays in Idleness*, Yoshida Kenkō (possibly 1283–1352) aptly said, “The fleeting transience of life is most keenly felt in autumn.” In Japan, this sentiment is associated with the imagery of wind rippling across autumn fields, and depictions of these “autumn grasses” on decorative objects offer a window into the artistic impulses these emotions stirred.

# 秋草



ちゅうけん 深緑地秋草尾長鳥模様  
長絹 深緑地秋草尾長鳥模様  
頭紋紗（絹） 江戸時代・18世紀  
奈良・金春家伝来 I-3271  
Noh Costume (*Chōken*) with Autumn Grasses and Long-Tailed Birds  
Silk figured gauze (*kemonsha*)  
Edo period, 18th century  
Passed down by the Komparu troupe

\* 作品データは、作品名称、作者、制作または出土地、材質技法、時代・世紀、寄贈者等、当館の所蔵番号の順に記しています。



特集 日本の伝統模様 秋草  
展示：令和5年（2023）10月11日（水）～11月19日（日） 東京国立博物館 本館14室

令和5年（2023）10月11日発行

執筆・担当：小山弓弦葉、清水健、中村麻友美、撮影：藤瀬雄輔ほか、翻訳：ミウオシュ・ヴォズニ（以上、東京国立博物館）、レベッカ・ハーモン（WritingWise）  
デザイン・印刷：能登印刷株式会社 編集・発行：東京国立博物館 ©2023 東京国立博物館 Tokyo National Museum

# 秋の七草を探しに……

山上憶良は「秋の野に咲きたる花を指折りかき数ふれば七種の花」とし、「萩の花尾花葛花瞿麥の花女郎花また藤袴朝顔（あさがほ）の花」（『万葉集』巻八）と秋の七草を詠みました。陶磁器、蒔絵の箱、金工、刺繍や織物など、日本の工芸品には秋の七草がさまざまに表現されています。なかには、実際の色とは異なる色を自在に使った模様もあります。それぞれの秋の七草を採ってみましょう。

## In search of the seven autumn grasses...

Yamanoue no Okura celebrated the seven autumn grasses in verse, writing “I count the flowers blooming in the fields of autumn on my fingers and find there are seven kinds.” He continues, “Namely, these are the bush clover, eulalia grass, blooming arrowroot, fringed pink, fragrant eupatorium, patrinia, and balloon flower” (*Collection of Myriad Leaves*, Vol. 8). These seven flowering plants are depicted in multiple ways on Japanese ceramics, lacquerware, metalwork, embroidered objects, textiles, and other decorative arts. See if you can identify the seven autumn grasses by examining each motif's distinct features.



はぎ  
萩  
Bush clover

文字通り、秋に咲く花です。小さな丸い三つ葉が密集し、蝶々が羽を広げたような花が先細りに連なるのが特徴です。「おはぎ」は萩が咲く彼岸の季節に食べることに由来します。



あさがお  
朝顔  
Morning glory

かげたおびもよぎしゆすじあきくさもよう  
掛下帯 萌黄縞子地秋草模様  
縞子（絹）、刺繍 江戸時代・19世紀 I-4279  
Sash (*Obi*) with Autumn Grasses  
Silk satin (*shusu*) with embroidery  
Edo period, 19th century



じっは  
桔梗  
Actually, these were "balloon flowers"

おみごろもむらさきしゆすじくもあきくさもよう  
小忌衣 紫縞子地雲秋草模様  
縞子（絹）、刺繍  
江戸時代・19世紀 アンリー夫人寄贈 I-3727  
Kabuki Costume (*Omigoromo*) with Clouds and Autumn Grasses  
Silk satin (*shusu*) with embroidery  
Edo period, 19th century; Gift of Mrs. Henry

『万葉集』に詠われた「朝顔」は、実際は「桔梗」だったとされています。蕾は折り紙でできた紙風船のように内部に空気を含んで膨らみます。咲いた姿は星のような形で表わされます。



かぜにあきくさまきえ かしよばこ  
垣秋草蒔絵歌書箱  
いがらし  
五十嵐派 木製漆塗、蒔絵  
江戸時代・17世紀 H-4627  
Box for Poetry Books with a Fence and Autumn Grasses  
By the Igarashi school; Lacquered wood with *maki-e*; Edo period, 17th century



おばな  
尾花  
Eulalia grass

からおり こうはくだんきくすずちりゅうもよう  
唐織 紅白段菊薄蝶模様  
唐織（絹） 江戸時代・18世紀 奈良・金春家伝来 I-3204  
Noh Costume (*Karaori*) with Chrysanthemums, Eulalia Grass, and Butterflies  
Silk *karaori*; Edo period, 18th century  
Passed down by the Konparu troupe

こぞでせりしあちりめんじくもついで  
小袖裂 白縮緬地雲衝立  
おみなえしきくもみじもよう  
女郎花菊紅葉模様  
縮緬（絹）、友禅染、型染、絞り  
江戸時代・18世紀 I-3410-20  
Fragment of a Kimono (*Kosode*) with a Cloud, Standing Screen, Patrinia, Chrysanthemum, and Autumn Leaves  
Plain-weave silk crepe (*chirimen*) with paste-resist dyeing (*yūzen*), stencil dyeing, and tie-dyeing  
Edo period, 18th century



ふじばかま  
藤袴  
Fragrant eupatorium

いろえ ふじばかま ずさら  
色絵藤袴図皿  
鍋島 磁製  
江戸時代・18世紀 G-4762  
Dish with Fragrant Eupatorium  
Nabeshima ware  
Porcelain with overglaze enamel  
Edo period, 18th century

茎の先端にたくさん咲く藤色の花の形が、袴の形に似ていると古人はイメージしました。源実朝は「藤袴きてぬぎかけし主やたれ問へどこたへず野の邊の秋風」（『金槐和歌集』巻之上）と詠いました。

くすばな  
葛花  
Blooming arrowroot

いろえ くすばなもんみずさし  
色絵葛花文水指  
まくずちりょうぞう  
真葛長造作 陶製  
江戸時代・19世紀 G-890  
Water Jar with Blooming Arrowroot  
By Makuzu Chōzō  
Stoneware with a slip, underglaze blue, and overglaze enamel  
Edo period, 19th century

蔓性で葉脈が三方向に伸びる大きな葉と、先細りに咲く花が特徴です。その根は奈良の特産品として食用にもなっています。



おみなえし  
女郎花  
Patrinia

茎の先端に皿に載ったように小さな花がたくさん集まって咲くため、模様では花の群れを雲のような形で表わします。名前には「美女を圧倒する美しさ」の意味があるようです。

なでしこ  
撫子  
Fringed pink

別名は常夏。花びらの輪郭がぎざぎざしており、小さな細長い葉が茎の両側に綺麗に並んでいます。「撫でし子」の意味から、可愛がつている子どもや女性に喻えられました。



からおり べにじりびがきあきくさもよう  
唐織 紅地檜垣秋草模様  
唐織（絹）  
江戸時代・18世紀 I-2037  
Noh Costume (*Karaori*) with Woven-Wood Fences and Autumn Grasses  
Silk *karaori*  
Edo period, 18th century

